

2007年 わらじの会 見沼福祉農園活動報告

1～2月 冬の畑はさびしいものです。



わらじの会は越谷・春日部を中心に29年前から活動しています。

現在、身体障害者通所授産施設「くらしセンター・べしみ」/デイケア・パタパタ/ぶていっく・ぶあく/生活ホーム・オエヴィス/生活ホーム・もんでん/黄色い部屋/わら細工/越谷市生活支援センター・苞の8つの場を中心に活動しています。

これらの場に関わっている人や普段わらじの活動には参加できない人などが、月2～4回に分かれて農園へ行っています。

3月

たまねぎ、じゃがいも、レタス・キャベツ・・・かえる



彼岸前にはじゃがいもを植えましょう・・・それからレタスとキャベツを・・・

この季節は、ほどよく体を動かせます。車椅子に座りっきりでは寒いしもったいない。なので、一緒にジャガイモの植えです。

一人では立っていることができないけれど、誰かと一緒ならできるもの。畑の仕事が好きかどうかは問題ではありません。とにかく、一緒に畑に来ること、来てしまったら、一緒にやること・・・でも、今の季節だからです。夏草だらけの時には余裕がありません。びっくりして、蛙が飛び出してきました。

4月

草取りとポタン見学



統持院のぼたん園



車椅子の乗っているときには、だらりとだらしく座っているK君も、ごろりと寝転べば、体をムりに支えられなくても草取りができます。なんだか、いつもは見られない働きぶり……。そういえば、彼のお母さんも畑で作物を作るのが好きだとか。

やはり、月に数回しか訪れない見沼農園ですが、観光も……。近くにある統持院のぼたん園を見学に。見事でした。

5月

収穫；大根。かぶ、レタス、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー

いただきもののいちご、小松菜

植えたもの・里芋



少し遅く種芋を植えたので、芽がでてこないと思ったけれど、りっぱに……。ほっと一安心。

ぺんぎん村さんのいちご畑で収穫をさせてもらい、みんなの頬も赤くなりました。



少しずつ、いろんな作物を作り、収穫するのは「販売」とは程遠いけれど楽しい。

6月

じゃがいもの収穫



収穫作業は、誰もが楽しい。車椅子から降りてござにすわって、ジャガイモを掘っているのは、デイケアパタパタ職員の吉田さん。彼女の実家は農家なので、畑のことはまかせておけ・・・だけど、掘るのはめったにないことだろう。



掘ったじゃがいもを、すぐにふかして食べてみる。
収穫したてはやっぱおいしい。

7月はじめ

里芋・じゃがいも・ゴーヤ・なす・かぼちゃ・綿・こんにゃく
なす、ゴーヤ・かぼちゃ、里芋、さつまいも、綿、しそ



手作り班農園報告書

2007年の農園での作業は昨年に引き続き、『ちゃんとした(!?)畑』を維持できるほどみんなが頑張っていた。

今年は共同作業日の第4火曜日だけでなく、定例会の日である第1火曜日にも農園に行き、草抜きや肥料やり、収穫などをし、今まで参加しなかった手作り班以外の人も声をかけて参加してもらった。いつもと違うメンバーがいると活気も出て作業もはかどったように感じた。

手作り班のメンバーのY子さんは農園で作った野菜をお土産で持って帰ることを楽しみにしている。その分、雑草抜きも収穫も一生懸命やっていた。ちょっと前まで「農園に行かない!!」と怒っていたのがうそのように農園の日を楽しみにしてくれている。

Y佳ちゃんはMy長靴持参で参加。堆肥を運んだり、抜いた雑草を運んだりと力仕事をやっていた。

Hさんはほとんど参加できなかったが、参加したときは誰よりも動き服が汚れるのも気にせず働いていた。また、疲れて動かないメンバーに発破をかけてくれたりもした。

H枝さんは「農園は嫌い」と言いつつも参加。介護者メンバーが気づかないところをフォローしてくれた。

S佳さんは車椅子からおりて綿の収穫、雑草抜きをした。Y子さんと同じ位の参加率だった。

介護者メンバー、障害者メンバーそれぞれが動き、お互いを気遣い、補いながら農園での作業ができた一年だと思う。

また、『わくわく』『風の学校』の方々とも話す機会も増えたように感じた一年だった。

20年も無理の無いペースでたくさんの人を巻き込みつつ『畑らしい畑』を目指したいと思う。

11月

気がつけば、みんな勝手に仕事をしている。適当にできることをしている。それがいいと思う。



◆初めてのものを見る目の輝きに年齢差はない！

「見沼福祉農園協議会」でさいたま市の農業祭に出店した。「見沼福祉農園協議会」とは、埼玉県の「見沼田圃保全事業」の一つで、さいたま市を中心としたいくつかの団体が協議会を作り、見沼たんぼの一角をかりて畑をやっている。最初は障害者団体だけで構成されていたが、最近では学生やボランティアの団体、ロータリーの有志が参加している。

さいたま市の農業祭には今年初めて出店したが、「農家資格」を持っていない私たちは農産物の出品が禁止されている。

わらじの会で出品できるもの考えた時に、綿くり（綿と種を分ける）を体験しつつ種つき綿を販売することにした。

どうせなら…と糸つむぎを実演してみせた。

70歳以上のお年よりは「子供は暇だからってな、小さい時にやらされたよ」と綿くり作業には懐かしさや苦い体験を思い出していた。しかし、綿が糸になっていく様子を目にしたときに、その目はきらきらと輝いた。まるで小さな子どものように、座り込んでじっと眺めていた。好奇心っていくつになっても大切だ。

わらじの会は、今年も来年も身の丈以上のかかわりを、見沼福祉農園の中では行えないかもしれない。それでも、できるだけ、「出会い」を大切にしながら、見沼の土を守っていきたいと思う。

できることなど、たかがしれているかもしれないけれど、続ける中で、一緒に育っていきたいと思う。

